

作成日	2019 年 6 月 26 日
学科・専攻名	生活造形学科

## 教育課程・学習成果

### 1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

#### 【現状説明】

本学科における専門科目は、教育課程編成・実施方針に基づき、各科目の連携を図り体系的な教育課程を編成し、実施している。具体的には、以下のような体系づけをおこなっている。1年次では、生活造形の基礎を学ぶと共にデザイン、アパレル、空間など3領域に関する基礎的知識を身につける。また、演習・実習で、専門の学びを進める。1回生前期の必修科目である生活造形基礎演習は、アカデミック・スキルを身につけるための初年次教育を少人数クラスで実施している。2年次では、発展的講義で各専門領域の学びを深める。また、各自の興味に応じ、演習・実習での学びを通して、主体的に調査し考える力を養う。3年次では、発展的講義で各専門領域の学びをさらに深めていく。後期にはゼミ単位に分かれて専門演習をおこない、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていく。4年次では、1つの分野に絞って一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指す。なお、学科の全科目について、学位授与の方針に基づき(1)知識・理解、(2)汎用的技術、(3)思考・判断、(4)対話・相互理解、(5)社会性・自律性、(6)自立性の6つ能力に關与する程度を示すことで、教育課程が体系的に編成されていることを、わかり易く簡略化したカリキュラムマップを作成し明示している。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

### 2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

#### 【現状説明】

本学科では教育目標の達成のため、以下のような体系的学習システムを構築している。1年次においては20名程度6クラスに分かれ、各クラス1名の専任教員が担当する必修科目として「生活造形基礎演習」を開設し、学内での授業（講義、レポート作成）と学外授業（見学）などを組み合わせて、学習方法の基礎を指導している。（2019年度新カリキュラムより開設。2018年度までの旧カリキュラムでは、生活造形基礎演習Ⅰ・Ⅱを前期・後期に設置していた）。2年次、3年次前期は、実験・実習において30名以下の少人数で指導する科目を設置し、きめ細かな指導をおこなっている。3年次後期には、必修科目として生活造形専門演習（プレゼミ）を設置してゼミ分けをおこない、卒業研究に向け、その研究の基礎となる学びを提供している。4年次では、それまでに学んだ学習方法を駆使して取り組む卒業研究・論文を指導し、その成果をプレゼンテーションする場として卒業研究発表会を設けている。

また、履修指導については、必要に応じて個々の学生のGPAに基づき実施している。シラバスについては、授業の到達目標、授業の概要、授業計画、評価方法、授業時間外の学習、学生へのメッセージ、教科書・参考書の明示、京女AL区分などを明記し、学生が主体的に学習するように設定している。この明記が学生の学びに有用な内容になるよう、各教員が各項目について明確にかつ具体的な表現になるよう留意し、その質を担保するべく、教員の第三者がその内容をチェックしている。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

2018年度より、年1回、1年次の必修授業後の時間を使い、教員紹介として教員全員が各10分の講義形式で、担当授業や卒業研究指導、研究活動等を紹介する機会を設けた。また、2019年3月に学生に配布する冊子『生活造形学科研究室訪問』を制作し、

教員の教育研究活動を紹介した。この冊子は、学生がゼミ選びや卒業研究のテーマを考える上で参考にしてもらうことを目的として、2018年度教育活動予算を使って制作したものである。

**【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

### **3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。**

**【現状説明】**

教育課程及びその内容、方法の適切性については、学科会議において、授業評価アンケートや学生生活実態調査、卒業時満足度調査の結果から検証している。2018年度学生生活実態調査結果でのカリキュラムや講義内容についての満足度（P182）をみると、講義内容については全学平均8.9%に対し本学科は13.4%と大きく上回っており、カリキュラムについても全学平均4.9%に対し本学科は8.2%と高く、本学科が教育内容についての改善を継続的にこなってきた証であると考えている。また、毎年度、次年度の時間割を作成する作業の際に、各科目の受講者数、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを、学科会議で検証している。原則4年に1度実施されるカリキュラム改革においては、造形意匠（デザイン）・アパレル造形・空間造形の各分野で点検・評価を行ない、改善策を検討し、それをもって学科で組織するワーキンググループで検討する体制をとっている。また、全学の教務委員会あるいはワーキンググループで全学的な観点からも、検証している。その他の取り組みとしては、全学のFD講演会、FD交流会（事例発表）、公開授業への参加等をおこなっている。

**【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

**【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

## **教員・教員組織、FD**

### **1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。**

**【現状説明】**

生活造形学科は2019年4月現在、14人の教員によって編成され、職階は教授8人、准教授6人となっており、学科共通基礎科目と各専門分野の専門科目、資格取得のための科目を提供するために必要な専門知識・経験を備えた教員を配置し、全教員が大学院を兼任できるレベルである。男女の内訳は男性7名、女性7名と、バランスのとれた構成である。なお、職階の内訳としては、造形意匠（デザイン）分野は教授1名・准教授3名、アパレル造形分野は教授4名、准教授1名、空間造形分野は教授3名、准教授2名である。

専任教員1人あたりの学生数は、2017年度33人、2018年度31.4人で、教育の質向上の視座においては改善がみられたが、2019年度から学科定員が20人増となったため、今後は比率が増加することが予測される。なお、専門領域の必須科目はすべて専任教員が担当している。

また、本学科では、毎年度実施する自己点検・評価の他、カリキュラム検討等に合わせて教員組織の適切性について点検・評価をおこなっている。その結果をもとに、必要に応じて、学科会議で公募採用人事案を策定し、全学の人事委員会にて提案している。

**【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

**【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

**2. 学科・専攻独自のFD活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。****【現状説明】**

生活造形学科では、毎年、卒業研究の成果報告の場として、11月初旬に卒業研究中間発表会、2月上旬に卒業研究発表会および作品展を行ない、教員全員が参加している。これらの行事は、卒業研究の評価の場であるとともに、卒業研究に取り組む学生のモチベーションの向上に役立っていることは自明のことであるが、一方で、学生の発表は、卒業研究指導を反映するものであり、その点においては、教員が卒業研究指導の方法を互いに参考にし合い学ぶ場となっている。そこで、本学科では、卒業研究に関連するこれらの行事を卒業研究指導の質の向上を図る取り組みと位置づけている。

教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導等）に対する学生の満足度については、「授業アンケート」や「学生生活実態調査」を基に、学科会議で検証している。授業アンケートに対する意見交換では、学生の満足度には、総じて大きな問題は無いという認識を得たが、シラバスの活用に関しては、全体に低い値となっていることから、学生へのシラバス活用の周知徹底が必要であることが確認された。学生生活実態調査の結果に対しては、【授業内容・方法】において、提出レポートの添削・フィードバックに問題があることが確認され、レポートの添削・フィードバックや、課題作品の返却方法をどのように行うかを検討した。また、ICT利活用に関しては、他学科より評価が高いことから、これを本学科の特長として、さらに充実させていくことを確認した。

**【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

**【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

**内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）****一般的なコメント（総評）**

問題点が的確に認識され、改善に向けた活動が推進されていると評価できます。

**改善勧告コメント（具体的な改善の指示）**

**教員・教員組織・FD**2.「学科・専攻独自のFD活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか」の【現状説明】において、教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導等）に対する学生の満足度を「授業アンケート」や「学生生活実態調査」を基に学科会議で検証しているとのことですが、その結果、具体的にどのように現状認識しているか、また、その現状認識に対して、学科内でどのように質向上に取り組んでいるのか記載してください。

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見****意見**

授業アンケートに対する意見交換では、学生の満足度には総じて大きな問題は無いという認識を得たが、シラバスの活用に関しては全体に低い値となっていることから、学生へのシラバス活用の周知徹底が必要であることが確認された。学生生活実態調査の結果に対しては、【授業内容・方法】において、提出レポートの添削・フィードバックに問題があることが確認され、レポートの添削・フィードバックや、課題作品の返却方法をどのように行うかを検討した。また、ICT利活用に関しては、他学科より評価が高いことから、これを本学科の特長として、さらに充実させていくことを確認した。